



「ぐー、ちょき、ぱー」、五十路も半ばを越えたこの頃では、「じゃんけん」をすることが無くなってしまいました。最後に「じゃんけん」をしたのは何時だったか？ どんな時に、誰としたのだったか？ そうそう、思い出しました。球技スポーツの試合の先攻・後攻を決めるときでした。

今まで、余りに留めることもなかつたこの「じゃんけん」、気になると、止まらない性分で、この手法、何時頃、何処で始まったのだろうか？ これは日本固有のものなのだろうか？ どうしてこのような手の動作になったのだろうか？ 何故、世の中(日本国内?)に広まったのだろうか？ 際限なく疑問が湧き上がります。

小さい頃から、頻繁に使っていたこの動作、意外や意外、よく考えてみると、全く何も知らないのです。こんなこと多いですね、余りにも日常的であるが故、まったく知らずに利用しているケース。皆さん毎日忙しく、そんなこと暇人くらいしか考えないのかもしれない。

この際、調べてみるか？ この頃は便利です。パソコンの前に2～3時間も座りますと、結構な物知り博士になります。世界的には日本と同じ手の形のじゃん

けんが多いようです。発生は、どうやら中国、かなり古く、ただし、現在の形は鉄や布の開発された以降であることは間違いありません。

アメリカでは如何なのでしょう？ 西部劇などを見る範囲では、「じゃんけんぽん」の姿は見られません。あちらはコインをほり上げ、手の甲にのせたものの裏表を当てるもの、格好良いですね。想像して見てください、西部の荒くれガンマンが「じゃんけんぽん」。

共に、恣意を捨て、神の意思、仏の意思(運)に任せるとの手法、結果に対して不平、不満も少なく、万人が認める非常に優れた手法ゆえ広まったのでしょうか？ 現に「じゃんけんぽん」は法意を推察するとゆう仏教語の発音から来ているとの説、納得できます。では、世界の主流となっている三つの形、石、鉄、紙(布)、これらの形は、手の形の中で最も造り易い形でもあります。この辺りから考えますと、この形や、その強弱の関係は後付けされた可能性も否定できないのではないのでしょうか？ 三すくみの考え方も興味津々、私などはこの形に処世訓が隠されているように感じます。

広々とした開けっぴろげの人、意志の強い人、切れる人、いやいや、もはやお時間となりました。

全社視点からの製品開発が重要!

新製品・新技術開発プロセス革新

～自社に適した開発プロセスを構築し、ヒット製品の量産を～

新製品・新技術の開発、その経営への寄与度を高めるために、開発プロセスの革新を提言します。

経営環境の分析から販売での一連のプロセスを全社的視点から再構築することにより、貴社の開発力の向上を図ります。これにより、経営戦略を基盤とした開発活動を効果的に進めることができます。



テクノ経営総合研究所 TECコンサルタント

中上 義春 なかうえ よしはる

中小企業診断士(鉄工業) 大阪府中小企業支援センター登録アドバイザー、ひょうご中小企業活性化センター登録専門家。中小製造業の経営革新、新製品・新技術開発、創業、インターネット活用等、幅広いテーマで指導・講演を展開中。